

知財教育実践プログラムの芸術系短期大学への展開事例(続報)

○李鎔璟(山口大学)・長田和美(山口芸術短期大学)

1. はじめに

山口大学では共通教育課程において全学部(8学部1年生約2000名)を対象とした必修知財科目¹⁾(1科目13クラス)及びその必修知財科目に接続する知財展開科目(選択科目15科目17クラス)、さらに大学院必修知財科目(1科目8クラス)を開設している

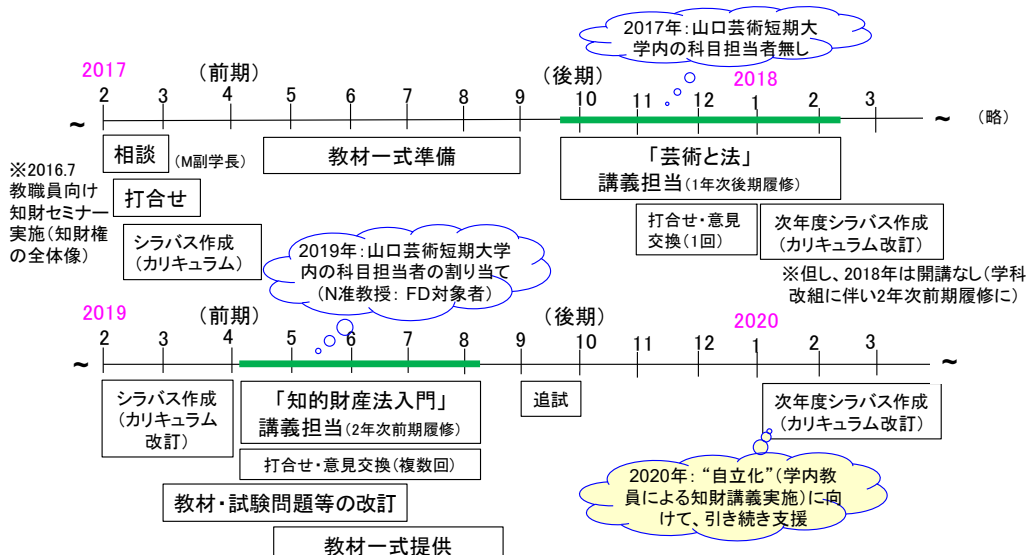
<p>●2016~ 大学院知財科目(必修)・・・『知的財産特論』【対象学生等】修士1年、1単位 【クラス等】前期前半:①基礎科学(火)、②建設環境・化学(金) ←一部博士1年次履修有り 前期後半:③機械・電気情報(火)、④医学系(火)、⑤人文・地球圏・農学系・経済(金) 後期集中:⑥社会人、⑦留学生、⑧留学生(共同獣医学研究科相乗り)</p>
<p>●2014~ 随時 知財展開科目(選択)【対象学生等】学部1~4年生、⑤⑥⑦2単位その他1単位 【科目名・クラス等】 ※原則、集中講義、③④⑨⑬は2020年新設 <前期> <後期> ①著作権法I(5月) ⑦コンテンツ産業と知的財産(10月) ②特許法(5月) ⑧農業と知的財産(10月) ③種苗法(6月) ⑨情報法入門(11月) ④技術経営と知的財産(7月) ⑩商標法(11月) ⑤-1 知財情報の分析と活用(常盤C、8月) ⑪標準化と知的財産(12月) ⑤-2 知財情報の分析と活用(吉田C、9月) ⑫意匠法(12月) ⑥-1 ものづくりと知的財産(常盤C、9月) ⑬知的財産管理論(1月) ⑥-2 ものづくりと知的財産(吉田C、9月) ⑭不正競争防止法(1月) ⑮著作権法II(2月)</p>
<p>●2013~ 知財入門科目(必修)・・・『知的財産入門』【対象学生等】学部1年生、1単位 【クラス等】前期前半:①教育1(金)、②農・獣医(金)、③理(金) ←一部2年次履修有り 後期前半:④経済1(木)、⑤工1(木)、⑥工2(木)、⑦医(金)、⑧教育2(金) 後期後半:⑨経済2(木)、⑩国総(木)、⑪工3(木)、⑫人文(木) その他:⑬再履修生向け(常盤C、集中)</p>

図1 山口大学の共通教育課程における知財教育科目(2020.4.1時点)

(図1)。そして、これらの実質的な知財教育体制をベースに、文部科学省より「知的財産教育研究共同利用拠点」(以下「知財教育拠点」という)の認定を受けている²⁾。これまでに、この知財教育拠点の活動の一環として地元の芸術系短期大学における知財教育支援(支援期間:2017.2~2020.3)の実践取組、及び受講生のアウトプット(成績やアンケート等)からの学習効果等について考察している³⁾。本発表では、この知財教育支援の実践事例について続報する。

2. これまでの取組概要と支援内容

これまでの取組概要と支援内容を図2と図3に示す。山口芸術短期大学への知財教育支援は、2017年2月に始まり、最終的には“自立化”(学内教員による知財講義の実施)を目標とする。



◆支援内容

- カリキュラム作成(山口大学の知財教育科目をベース)
- 教材一式の提供(講義スライド、関連コンテンツ、試験問題等)
- 講義担当(兼 ファカルティ・ディベロプメント(FD)研修)
- 講義前後の打ち合わせ・意見交換 ※FD:「大学教員の教育能力を高めるための実践的方法」
- 講義映像の収録と提供
- フォローアップ ※5,6は主に“自立化”への移行フェーズ(2020年以降)に行う

図2 これまでの取組概要と支援内容(2017.2~2020.3)

そして、この“自立化”に向け 2020 年後期に全 15 回×90 分（試験を除く）の講義のうち一部を山口芸術短期大学の知財を専門としない教員（専門はデザインと情報処理）が担当した。

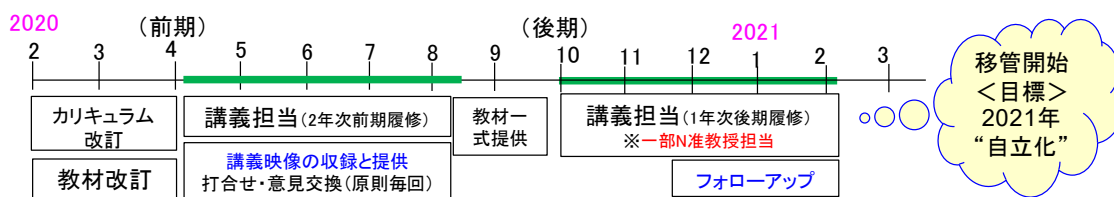


図3 これまでの取組概要と支援内容（2020.4～2021.2 現在）

3. 結果と考察

山口芸術短期大学の教員が担当した回（90 分×3 回）の講義内容に関する学生のアウトプット（期末試験相当の課題）として、課題の間別の正答率を図4に、得点分布を図5に示す。

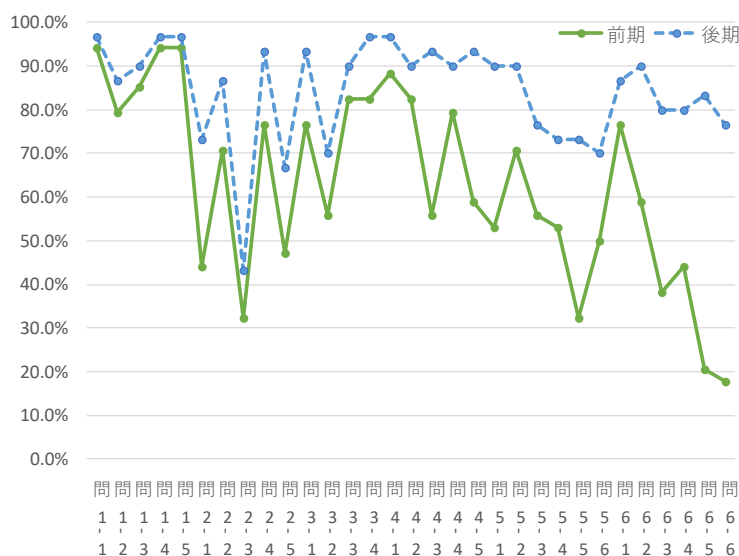


図4 前期と後期のクラスの期末課題の間別正答率の対比

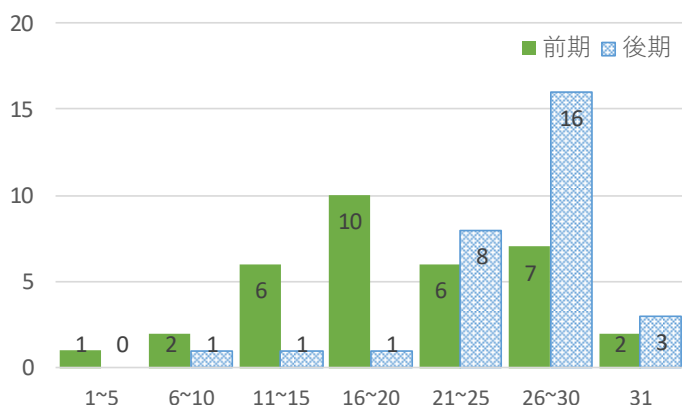


図5 前期と後期のクラスの期末課題の得点分布の対比

ることが示された。また、山口芸術短期大学の教員は、知財教育拠点より提供した講義スライド等の教材をカスタマイズし講義を行っており、その結果より高い学習効果が得られた。つまり、学生達と日ごろから緊密に接し修学状況などを詳細に把握している学内教員が、講義内容を理解し、自ら教材をカスタマイズし教授方法を工夫することで、より高い学習効果が得られることが示された。また学生授業評価においても授業の理解度と満足度の肯定的回答は後期の方が高い割合となった（理解度：前期 80%→後期 83%、満足度：前期 77%→後期 90%）。以上の結果を踏まえ、2021 年には完全“自立化”を目指し、引き続きフォローアップを行う。

1) 「全学必修知財教育の授業改善取り組みとそれによる効果分析」, 李鎔環 他, 産学連携学, Vol.13, No.1(2016) 他。
 2) 文部科学省 HP (https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigakukan/1292089.htm) ; 当初拠点名は「教職員の組織的な研修等の共同利用拠点(知的財産教育)」(2015.7.30～2018.3.31)。現在は「知的財産教育研究共同利用拠点」(2018.4.1～2023.3.31)。
 3) 「知財教育実践プログラムの他大学への展開(芸術系短期大学への事例)」, 李鎔環, 長田和美, 産学連携学会第 18 回大会, 講演予稿集, 1118C0900-2, p100-101 (2020.11.18)。